

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	木曜 3 限(予約が必要)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、社会心理学、情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A、社会調査論、社会調査演習 1
2022 年度担当科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、マーケティング、情報と社会、総合演習 B、基礎演習 A、基礎演習 B
授業概要	<p>消費者行動またはメディアに関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けて実証研究を行う(何らかのフィールド調査を実施し、自分でデータを収集する)。マーケティング・リサーチまたは、社会調査関係の単位を修得していることが好ましい。統計分析を SPSS や R を用いて分析することが困難でない学生が好ましい。</p> <p>テーマの例としては、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、ネット投稿のテキストマイニング、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選び、4 年生のときに自分でデータを収集する。収集したデータは、統計手法を用いて分析する。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をゼミで発表してから、3 年生の秋学期までに決める。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	大橋洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3限
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2023年度担当科目	情報表現演習 プログラミング入門 テキストマイニング 基礎演習A 基礎演習B プロジェクトマネジメント演習 統計学入門 調査集計法A 調査集計法B 情報学序論
授業概要	<p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ol style="list-style-type: none">① データサイエンス分野の分析手法の習得② 理論に基づいた調査の体験 <p>春学期には、調査会社と連携し、論文探索に基づいた調査仮説、質問文を作成します。これまで、「若者の離職率と孤独感の関係」や「一人暮らしの際に両親は子供にTVを買おうかと尋ねるか」といった学生発による調査テーマを作成し、実際に調査会社の審査を経て、調査をすることができました。来年度も同様に、ゼミナールの皆で考え、調査する意義のあるテーマを探し、実査に移していきたいと思ひます。</p> <p>秋学期には、調査したデータを分析していきます。Excel、R、Python、KH Coderなどの中から学生が使えるツールを選んで1から学習し、データに基づいた調査仮説の検証を行っていきたく思ひます。また、最終的には学外に発表の場を設け、春学期の調査計画から秋学期の分析結果までを発表し、成果としたいと考えております。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	火曜日 (1 限、3 限)、水曜日 (午後)、金曜日 (2 限、3 限) ※研究室の web サイト(https://w.atwiki.jp/isakuma/)を確認してから来るようにしてください。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、計算社会科学入門、計算社会科学、統計学入門、調査集計法 A・B、社会調査演習 I・II など
2024 年度担当科目	社会心理学、計算社会科学入門、計算社会科学、社会調査演習 I・II など
授業概要	<p>本ゼミナールは、社会心理学研究(実験、調査、内容分析、公開データを含む二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて何らかの主張を行うタイプの研究)を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、以下の(3)や(4)に挙げられている題目を見ればわかる通り、メディアやコミュニケーションなど情報社会に関連した計量研究が典型的なものとして挙げられます(もちろんこれらに限定しません)。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 4 つになります。</p> <p>(1) 社会心理学の研究法: テキストや論文を講読しながら、社会心理学の研究方法について理解を深めます。</p> <p>(2) 計量研究の実習: 特定の尺度を取り上げ、その尺度の信頼性や妥当性を考察します。その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。</p> <p>(3) 個人研究: 各自の関心に基づきテーマをひとつ決めてデータの収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。過去のテーマ例は、「新型コロナウイルスが心理的側面に及ぼす影響に及ぼす影響」「ジェンダーフリー時代の女兒向けアニメの内容分析」「ヒット曲の歌詞のテキストマイニング」などが挙げられます。個人研究を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p> <p>(4) 卒業研究のテーマの検討: 4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。情報社会と関連づけることができるテーマであれば何で構いませんが、自分で収集したデータ、もしくは既存のデータを分析し、それらの分析結果に基づき何かを主張するタイプの研究が望ましいです。これまでのテーマ例としては、「LINE 利用が家族関係に及ぼす影響」「スマホゲームの依存の原因と結果」「ディズニープリンセスの描かれ方の変化」「都道府県別のキャッシュレス決済の普及率に影響する要因」など質問紙調査(web 調査)、内容分析、二次データの分析に基づくものが多いです。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐藤 孝司
e-mail アドレス	satotakashi@bunkyo.ac.jp
研究室	3 4 1 3
在室曜日・時限	火 3, 4、水 4, 5、木 4 （面談は事前にメールで問い合わせ願います）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	システム開発技法、システム設計、プログラミング演習 A/B/C、 その他ソフトウェア開発やシステム開発に関連する科目
2024 年度担当科目	システム開発技法、システム設計、プログラミング入門、プログラミング演習 A/B/C、 ゼミナール I / II、プロジェクトマネジメント演習 I / II
授業概要	<p>IT や情報システムに興味がある人や、将来 SE 職を希望している人に、現代の IT 産業 / 情報システムの社会環境変化や、高生産性/高信頼性システム開発手法などの課題・対策・あるべき姿を研究します。</p> <p>ゼミナール I / II :</p> <p>現代の IT 産業/情報システム環境や開発手法などの特徴や課題について、文献や各種メディアからトピックスを取り上げて解説し、各自の調査やグループで議論しながら理解を深めます。調査内容を各自でまとめて発表します。</p> <p>卒業研究 I / II</p> <p>各自でテーマを決めて、テーマに沿った調査・研究を進めて、最終的に卒業論文として完成させます。卒業研究テーマは、各自の関心が深いものを優先しますが、卒業論文として成立するに十分な検討や議論ができるように指導・助言をします。</p> <p>関連キーワード ; DX 推進の課題, クラウドサービス品質, モダン開発手法 (Web フレームワーク開発, アジャイル, DevOps, MLOps, ドメイン設計, 生成 AI 活用開発など)</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	火・水・木（授業があるので対面を希望する場合はメールで予約してください）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目全般
2024 年度担当科目	プロジェクトマネジメント, 同入門, 人間愛と情報社会, アルゴリズムとデータ構造 入門など
授業概要	<ul style="list-style-type: none">・新聞や専門誌に掲載された情報システム開発やソフトウェア開発の成功, 失敗事例に関する記事などを元に, 情報サービス産業に関する基本的な知識やプロジェクトマネジメントに関する知識を少しずつ身につけることで, 卒研のテーマ設定や就職活動に対する基礎を獲得します. このことに関しては, 予習を求めるものではありませんが, 授業に参加すること, 教室内での質疑応答に積極的に参加することが大切です.・春学期中に卒業研究のテーマを設定します. これは自分の興味はどこにあるのかを真面目に考えるためにも必要ですし, 何よりも 9 月以降には始まる就職活動を行う上で必須となる, 自分の専門分野は何かという説明能力を身につける上で大切なことです.・受講者の合意が得られれば, 異なる学年の学生の相互乗り入れによる学習効果を期待してゼミナール及び卒業研究を合同で行います (2023 年度は, 水曜の午前中 10:00 ~12:30 を使ってゼミを行っています. その他, 個別の学習指導を行います).・ゼミの進行は, 教員による問題提起又は卒研のテーマに関する受講者による進捗報告を題材に, ディスカッション形式で進めます. 出席をすること, メモを残すこと, 事後に興味を持って様々な知識に接することが大切です. 卒研のテーマを考えると, 就活のエントリーシートの作成を意識した短文の作成以外は, 予習や課題に相当するものはなく, 多くの場合は, 教室で学んだ知識を事後に様々な情報と結びつける事後学習 (復習とは少し違います) によって各自の成長を期待します.・よく就職に関することをゼミに結びつけて聞かれますが, これは本質ではありません. ただし, 専門性のある学習を経た学生を優先的に採用することは企業により明確に示されていますし, 自分の専門分野についてしっかり話することができるようになるという具体的な目標を持って学習することは, ゼミの目的にも, 成功する就職活動のための行動にも適しているものと思います. 本ゼミの就職先は主に中堅以上の情報サービス産業です (プログラマはいません). もちろん, 本人の志向で老舗のプラモデル屋の企画系や企業の広報関連の部署に就職した人もいます. 先輩の中には, 卒業後数年でプロマネとなった人もいますし, 就活生向けの企業広報などに掲載されている先輩もいますので, それぞれで活躍しているようです.

ゼミナール紹介

担当者名	西尾 好司
e-mail アドレス	Knishio3@bunkyo.ac.jp
研究室	3403
在室曜日・時限	火曜、水曜、木曜の昼休み時（事前にメールで連絡を下さい。）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	2年次開講科目：情報社会のビジネスモデル 3年次開講科目：情報と企業のイノベーション、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法（3年次に履修することが望ましいです。）
2024年度担当科目	基礎演習A、文献購読、情報社会のビジネスモデル、情報と企業のイノベーション、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法
授業概要	<p>1. 3年次のゼミナールの目標</p> <p>3年次のゼミナールでは、①文献・資料を読む、レジュメを作成する、講義で議論する習慣を作る、②秋学期のゼミナールⅡにおいて卒業研究のテーマや研究の方向性を確定し、卒業研究や統計データなどの基本的な文献資料の調査に着手し、研究対象とする組織や市場などの全体像を理解できるようにすることを目標に進めます。</p> <p>2. 3年次ゼミナールの進め方</p> <ul style="list-style-type: none">・輪読を通して、文献の効果的な読み方や、著者の意図を理解し、問題意識を掘り下げていくこと、文献がどのようにデータを収集し、研究を進めているかを学びます。・企業活動については、スマートフォン、IoT、マーケティング、小売業・サービスをテーマにした企業のケースを用いて、イノベーションやデジタル化、ビジネスモデルについての議論を行い、現代のビジネスにおける重要なテーマを深く理解し、企業の活動や製品・サービス開発に関する知識が得られるようにします。・地方公務員志望者がいることも想定し、地域に関連する文献も取り上げます。特に、社会課題の解決に向けた住民参加や自治体の役割に関する文献を用い、地域社会の活性化や社会的な問題に対するアプローチを議論します。 <p>3. 卒業研究のテーマについて</p> <ul style="list-style-type: none">・企業の活動や地方自治体の活動を主な対象として、3年の春学期の後半～秋学期の前半に学生と相談してテーマを決めます。・テーマを決めるにあたり、なぜこのテーマで卒業研究を行うのか（問題意識）、テーマに関連する先行研究の文献調査を行います。また、対象とする組織（主に企業）や業界、あるいは製品・サービスの市場などの全体像を理解できるようにします。・これまでの卒業研究のテーマとしては、ビジネスモデル、デジタル化、製造業の振興、ベンチャー企業、地域振興や防災などがあります。 <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none">・毎回、事前に資料を作成して参加することを原則としています。

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月曜日と水曜日の昼休み(図書館などにいることも多いので、事前に連絡をいただくと助かります)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2024 年度担当科目	データベース入門、図書・図書館史、基礎演習B、図書館概論、情報サービス論、情報サービス演習、文献講読、プロジェクトマネジメント演習、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。</p> <p>ゼミでは3年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになります。4年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。</p> <p>論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。逆に言えば文章を読み書きすることができない学生、自分で作業を進めることができない学生には向いていません。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	月曜 3, 4 限、木曜午後、金曜午後 (平日の午後は概ね在室していると思います)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2022 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、不確実性とリスクのマネジメント、情報社会における都市計画等
授業概要	<p>交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、<u>論理的思考能力、プレゼンテーション力</u>など様々な素養を身に付けることが出来ます。</p> <p>SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など<u>就職対策</u>に関して学内トップクラスの実績があります。</p> <p>また、国交省、警視庁、北海道開発局等の公官庁、ホンダ等の民間企業等と大型の研究プロジェクトを行っているので、<u>やる気があればその研究費による調査出張</u> (学生は無償) に同行することもできます。</p> <p>※令和6年は、北海道、岡山、今治、盛岡、熊本に学生を連れて行く予定</p> <p>モチベーションの高い学生には、<u>やり甲斐のある環境を提供</u>できるよう善処します。</p> <p>研究室の概要は、下記 URL を参考にして下さい。 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~tslab/</p>

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	(火)(水)(木) 事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	企業活動と情報システム、プロジェクトマネジメント、システム分析、調査集計法Ⅰ・調査集計法Ⅱ・社会調査特論、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ (選択テーマによる)
2024 年度担当科目	システム分析、プロジェクトマネジメント、企業活動と情報システム、キャリア研究、情報化要求の分析とソリューションの提案、プロジェクトマネジメント演習、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	<p>1. ゼミナールの目標 本ゼミナールでは、情報社会での不透明な点を明らかにすること、またはそこにある課題を ICT により解決することをテーマに、卒業論文を完成することを目標とします。その過程で、調査・分析を行い、手法を習得することを授業での目的としています。</p> <p>2. 研究の主なテーマ 卒業論文のテーマは、学生が個々に選択し、教員と相談の上、決定します。テーマは、教員の専門分野か、目標に沿う適切なテーマである必要があります。推奨する分野は以下のとおりです。</p> <p>(1) 情報システムの開発方法と開発マネジメント 企業活動・社会活動の支える情報システムを、開発する（作る）立場で考えます。従来のシステム開発は、予め決められた品質・予算・納期を守る開発方法とマネジメントで実施されてきました。しかし、不確実性の高い今日では、反復型やアジャイル型開発手法により柔軟にかつ迅速に顧客に価値を提供できる開発方法が求められています。研究を通じて環境や経営の変化に対する情報システムの役割を考えていきます。</p> <p>(2) 実社会での情報システム 今日の社会では、金融業、製造業、小売業、農業、建設業、電気・ガス等社会公共事業、福祉事業など、多くの業種の企業が活動を営んでいます。研究では、一つの業種・業態に焦点を絞り、そこにある課題とそれを情報化により解決する方法を探ります。</p> <p>(3) その他 情報社会の課題に対して ICT による解決策を提案することで、社会、企業、ユーザーに「役に立つ」テーマを選び研究として推進します。</p> <p>3. セミナールで習得する調査分析手法 【定量分析】 ・ネットリサーチ (Freeasy) でのアンケート作成と実施方法 ・相関分析 (Excel/ R Studio), t 検定 (Excel/ R Studio), 重回帰分析他 【定性分析】 ・インタビューの実施方法とテキストマイニング (KH コーダー)</p> <p>4. メッセージ ・チームワークを培う機会として、ゼミ合宿を実施します。2024 年度は神戸で IT 企業訪問、理化学研究所でのスパー・コンピュータ「富岳」見学を体験しました。 ・「情報システム開発に関する研究」、「情報社会の課題解決の提案」は、就活でも、企業に就職してからも直に役立つテーマです。 ・一緒により良い情報社会を提案し築いて行きましょう。</p>